Windows Live Messenger は、デフォルト アクションが復号化に設定され、認証が無効になっているときは機能しない

目次

概要

このドキュメントでは、デフォルト アクションが [Decrypt] に設定されており認証が無効な場合に Windows Live Messenger が機能しない問題について説明します。

環境

認証が無効である
HTTPS トラフィックのデフォルト アクションが、[Decryption policies] で [Decrypt] に設定されている
AVC トラフィックの暗号化が有効である

症状

Windows Live Messenger ログインが機能しません。

解決策

Cisco Web セキュリティ アプライアンス（WSA）で自己署名証明書または自己生成証明書を使用している場合、Windows Live Messenger はこの証明書を信頼しません。 したがって WSA がその証明書を使用してトラフィックを暗号化解除すると、メッセンジャーにより接続が終了またはリセットされるため、その結果ログイン/アクセスでエラーになります。

通常、Windows Live Messenger は Internet Explorer（IE）証明書ストアにインストールされている証明書を信頼します。

WSA の証明書をクライアント マシンにインストールします。インストールが完了したら、Windows Live Messenger が接続できるようになります。

クライアント マシンに WSA の証明書をインストールするには、次の手順を実行します。

1. [Security Services] ---> *[HTTPS Proxy]* ---> [Edit Settings] で、WSA から証明書をダウンロードします。
2. 証明書の拡張子を .pem から .txt に変更します。
3. メモ帳などのアプリケーションを使用して .txt ファイルを開きます。 .txt ファイルの内容をすべて選択します。
4. クライアント マシンでメモ帳ファイルを新規に開きます。 ステップ 3 で選択した内容を貼り付けます。
5. このファイルを「.cer」ファイルとして保存します。
6. 「.cer」ファイルを右クリックし、[Install Certificate] オプションを選択します。
7. 証明書がクライアント マシンにインストールされたら、Windows Live Messenger を閉じて再起動します。

グループ ポリシーまたは GPO を使用して自己署名ルート証明書をプッシュする方法の詳細については、以下の記事を参照してください。 グループ ポリシーまたは GPO を使用して自己署名ルート証明書をプッシュする方法